

小 学 校

平成 2 2 年度

教育研究員研究報告書

生 活

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	2
III	研究の方法と内容	3
IV	検証授業	8
V	研究の成果と課題	16

児童の気付きの質を高めるための学習活動

I 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領は平成23年度から全面実施となり、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことが重要とされている。平成元年に新設された生活科においては、平成10年の1回目の改訂に続く2回目の改訂となる。生活科においては、前回の改訂において「知的な気付きを大切にす指導」を改善の基本方針に位置付けてきた。しかし、学習活動が体験のみで終わっていることや、活動や体験を通して得られた気付きを質的に高める指導が十分に行われていないことが多く、「気付き」に対する教師側の理解と指導が十分でないことが、生活科新設からの課題となっている。

生活科の授業の中で、知的な気付きを大切にす指導における課題として、以下の点が挙げられた。

(1) 「知的な気付き」の概念を教師が十分に理解していない

学習活動や体験活動を通して、児童に認識させたいことを教師自身が明確にもっていない。例えば、草花の観察を行った際に、対象の草花のスケッチを行い、葉の大きさや色を記録するのみで、自然との関わりを十分に意識させることができないなど、教師自身が「知的な気付き」の概念を十分に理解していない。

(2) 気付きを評価し、次の指導に生かしきれていない

児童の気付きに対して、認識を深めたさせたり、気付きを基に考えさせたりするための指導が十分に行われていない。例えば、学校探検で調査した施設について表現させた際、施設の絵の出来映えや見つけた事実の数など、表面的な指導にとどまっている。表面的な指導にとどまることで、児童の気付きを次の指導へ十分生かしきれず、活動が単発的になってしまっている。

(3) 気付きの質を高めていくための指導と評価の一体化が図られていない

児童の気付きに対して、単元全体を通しての変容が十分に評価されていない。例えば、園児との交流を通して、身近な人々と関わる楽しさに気付かせる単元において、具体的な気付きの姿を想定せずに、交流を進めてしまうことが多い。教師が一人一人の児童にどのような気付きをもたせたいのか明確にしなければ、児童に活動や体験を振り返って考えさせることが十分でなくなってしまう。

生活科には、直接体験を重視した体験活動や、身近な人々や環境と関わり合う学習活動を行うという教科の特性がある。児童は、体験や活動を通して、自分の生活や自分自身についての気付きを基に考えたり表現したりしていく。これらの過程において、教師が多様な学習活動を設定し、一人一人の実態に応じて、適切な指導を行えば、気付きの質を高めていくことができると考え、研究主題を「児童の気付きの質を高めるための学習活動」とした。研究主題に迫るため本部会では、「単元における気付きの質の高まりの姿を明確にし、それを基に学習活動の充実を図れば、児童の気付きの質を高めていくことができるであろう。」という研究仮説を立て、基礎研究及び検証授業を通して研究に取り組んだ。

II 研究の構想

改善の基本方針

- ・人や社会、自然と関わる活動を充実し、自分自身についての理解などを深めるよう改善を図る。
- ・気付きの質を高め、活動や体験を一層充実するための学習活動を重視する。
- ・安全教育や生命の尊さを実感する学習活動を重視する。
- ・幼児教育との連携を図り、異年齢での教育活動を一層推進する。

児童の実態

- ・活動には、関心や意欲をもって取り組んでいる。
- ・身近な人々や環境に関わる体験が少なく、関わり方が苦手な児童が多い。
- ・児童の気付きの量や質には、個人差がある。

生活科の目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

授業の課題

- ・気付きに対して、教師が十分に理解していない。
- ・気付きを評価し、次の指導へ生かしきれていない。
- ・気付きの質を高めていくための指導と評価の一体化が図られていない。

生活部会研究主題

児童の気付きの質を高めるための学習活動

目指す児童像

進んで対象と関わり、気付いたことを基に、
さらに対象と関連付けて考えようとする子供

研究仮説

単元における気付きの質が高まった姿を明確にし、それを基に学習活動の充実を図れば、児童の気付きの質を高めていくことができるであろう。

研究内容

- ① 気付きの質が高まった姿を分類して整理し、生活科の内容と照らし合わせる。
- ② 気付きの質が高まった姿の捉え方と実際の児童の姿の具体例を考える。
- ③ 単元における気付きの質が高まった姿を考える。

研究方法

文献研究

- ・気付きの概念整理・考察
- ・実践事例の研究
- ・研究員報告書、先行研究の分析・整理

授業研究

- ・授業実践を通して、気付きの分析整理
- ・児童の気付きの質を高める学習活動の検証
- ・評価を支援に生かす方法の工夫

Ⅲ 研究の方法と内容

1 研究の方法

学習指導要領、教育研究員・東京の教育21・東京教師道場等の先行研究の分析や研究を行い、気づきの基本的な考え方を明らかにした。

(1) 基礎研究

ア 気づきの基本的な考え方

小学校学習指導要領解説生活編（平成20年8月）の改善の具体的事項には、以下のように記されている。

気づきは、対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるものである。そこには知的な側面だけではなく、情意的な側面も含まれる。また、気づきは次の自発的な活動を誘発するものとなる。

本部会で捉えた気づきの基本的な考え方は、対象への意味に気づき、身の回りにあるものを見直し、活動や体験に対して目的をもって、新たな働きかけをしたり、対象へ働きかけたりすることとした。

イ 気づきの質を高める具体的な学習活動

小学校学習指導要領解説生活編（平成20年8月）の改善の具体的事項には、以下のように記されている。

自分の特徴や可能性に気づき、自らの成長についての認識を深めたり、気づきをもとに考えたりすることなどのように、児童の気づきを質的に高めるよう改善を図る。その際、例えば、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動の充実に配慮する。

児童の気づきを質的に高めるためには、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「繰り返す」、「試す」等の多様な学習活動の充実に必要であり、そのために本部会では、学習指導計画に気づきの質を高めるための学習活動を位置付けた。

(2) 検証授業

部員所属校において、年間5回の検証授業及び、全体会において公開授業を行った。

第1回 平成22年 6月25日（金）調布市立調和小学校 藤井 実穂教諭
第1学年 単元名 「ちょうわしょう・だいはっけん（学校探検）」

第2回 平成22年 9月24日（金）練馬区立豊玉南小学校 大竹 玲子教諭
第1学年 単元名 「ようこそ、豊玉南小学校へ！」

第3回 平成22年10月28日（木）葛飾区立堀切小学校 武藤 末千子主任教諭
第1学年 単元名 「かぜよふけふけ かぜとあそぼう」

第4回 平成22年11月 9日（火）新宿区立早稲田小学校 下村 光主任教諭
第2学年 単元名 「すてきがいっぱい！ わたしたちのまち」

第5回 平成23年 1月17日（月）小平市立小平第六小学校 清野 純子教諭
第1学年 単元名 「だって1ねんせいだもん こんなにできるよ もっとできるよ」

全体会 平成23年 2月 4日（金）新宿区立早稲田小学校 下村 光主任教諭
第2学年 単元名 「ハートがいっぱい！ じぶんものがたり」

2 研究の内容

(1) 気付きの質が高まった姿を分類して整理し、生活科の内容と照らし合わせる

本部会では、基礎研究を踏まえ、学習指導要領の基本的な考え方と生活科改訂の趣旨にある改善の具体的事項を受け、気付きの質が高まった姿とはどのような姿なのかを考えた。

生活科の学習内容を構成する際の基本的な学習活動は、「自分と人や社会との関わり」「自分と自然との関わり」「自分自身」である。低学年の児童には、具体的な活動を通して思考するという発達上の特徴があることから、事実在即した気付きが最初に表れると考えた。そして、その気付きを基に、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「繰り返す」、「試す」等の学習活動を行うことで、人や社会、自然といった対象の気付きへと質的に高まっていく。また、活動を繰り返したり対象との関わりを深めたりする活動や体験を行うことにより、対象と自分への気付きも生まれてくると考えた。児童が活動における気付きを表現したり、気付きを基に考えたりすることが気付きの質の高まりにつながると捉え、気付きの質が高まった姿を、「対象」「対象と自分」「自分自身」に対する三つに分類した。

次に、学習指導要領解説生活編の内容(1)から(9)まで、児童のどのような姿が見られると気付きの質が高まった姿なのか、分類及び整理し、「生活科の内容と気付きの質が高まった姿の関連表」(5ページ参照)を作成した。また、気付きの質が高まった姿が、特に見られるのではないかと考えられる項目を重点として表し、学習指導計画に位置付けた。

(2) 気付きの質が高まった姿の捉え方と実際の児童の姿の具体例を考える

気付きには、まず、活動や体験を行った後の事実在即した気付きがあると考え。そして、その気付きを基に、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「繰り返す」、「試す」等の学習活動を行うことで新たに得た気付きを気付きの質が高まった姿と考えた。どの内容においても、気付きの質が高まった姿を想定し、その姿に迫ることができるよう、気付きの質を高めるポイントを設定した。また、事実に基づく気付きがどのように変わると気付きの質が高まったといえるのかを考え、実際の児童の姿を具体例として設定し、学習指導計画に位置付けた。

(3) 単元における気付きの質が高まった姿を考える

「生活科の内容と気付きの質が高まった姿の関連表」と「気付きの質が高まった姿の捉え方と実際の児童の姿の具体例」(6ページ参照)から、単元における気付きの質が高まった姿を考え、「単元における気付きの質を高めるための学習活動と児童の姿」を、学習指導案に位置付けた。学習指導案に位置付けることで、どこで「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「繰り返す」、「試す」等の学習活動を行えば、気付きの質が高まった姿に迫ることができるのか、明らかになると考えた。また、学習指導計画に、気付きの質を高めるための学習活動に対する指導を位置付けることで、より気付きの質が高まった姿に迫り、同時にその姿に至っていない児童への指導も適切にできるのではないかと考えた。

3 生活科における言語活動の充実を図る

本研究を推進するに当たっては、他教科との関連を図るとともに、生活科の特性を生かした言語活動の充実を図ることを目指し、以下の点に取り組む。

- ・児童の発言やつぶやきに対して、問い返したり、称賛したりすることで、児童自身に気付きを認識させる。

- ・活動や体験をその場限りで終わらせるのではなく、言葉によって振り返らせる。友達の気付きと似ているところや違うところを見付けることで、もっと調べたいという意欲を高めさせる。また、互いに伝え合い交流する中で、一人一人の気付きを全員で共有し、気付きの質を高めていくことにつなげる。
- ・活動や体験後、学習シートやカードに気付きを書かせることで、気付きを自覚させる。また、児童の気付きを評価し、その気付きを基に考えさせたり、活動をさせたりすることで気付きの質を高めていく。

「生活科の内容と気付きの質が高まった姿」関連表

生活科の内容 気付きの質が高まった姿		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
		学校と生活	家庭と生活	地域と生活	公共物や公共施設の利用	季節の変化と生活	自然や物を使った遊び	動植物の飼育	生活や出来事の交流	自分の成長
① 対象	1. 対象の役割に気付く	◎	◎	○	◎					
	2. 対象について詳しく気付く					○	○	1年 ◎ 2年 ○		
	3. 対象のきまりに気付く					○	◎			
② 対象と自分	1. 人の思いに気付く	○	○	○	○				○	◎
	2. 自分と対象との関わりに気付く	○	◎	◎	◎	○		1年 ○ 2年 ◎	◎	○
	3. 対象と関わる楽しさに気付く (情意面)			◎	○	◎	◎	○	○	
	4. 生命の大切さに気付く							◎		
	5. 自他のよさに気付く		○	○			○		◎	
③ 自分自身	1. 自分の成長に気付く		○					○	○	◎

※気付きの質が高まった姿が、見られるのではないかと考えられる項目を関連表に整理した。

また、気付きの質が特に高まる姿が見られる項目を◎とした。

「気付きの質が高まった姿の捉え方と実際の児童の姿」の具体例

①「対象」に対する気付きの質の高まりの姿

- 1 「対象の役割に気付く」とは、対象が存在する意味についての気付きが明確になることである。

内容	事実に基づく気付き	気付きの質が高まった姿
(4)	ガードレールがありました。	歩いている人を守るために、ガードレールやミラー等があります。

- 2 「対象について詳しく気付く」とは、変化や特徴についての気付きがより具体的になることである。

内容	事実に基づく気付き	気付きの質が高まった姿
(7)	アサガオのつるがのびました。	アサガオのつるが電話のコードみたいにまきついでのびているよ。

- 3 「対象のきまりに気付く」とは、特性や法則についての気付きを実感することである。

内容	事実に基づく気付き	気付きの質が高まった姿
(6)	ゴムを巻いて車を走らせたよ。	ゴムをたくさん巻いた車の方が速く、遠くまで走るよ。

②「対象と自分」に対する気付きの質の高まりの姿

- 1 「人の思いに気付く」とは、人々への気付きを思いにまで深めることである。

内容	事実に基づく気付き	気付きの質が高まった姿
(9)	ぼくは小さいころは病気をよくしていた。	たくさん病気をしていたけど、ここまで大きくなったのは、おうちの人が看病してくれたから、(大切にしてくれて) ありがとう。

- 2 「自分と対象との関わりに気付く」とは、対象への気付きを自分の生活に結び付けることである。

内容	事実に基づく気付き	気付きの質が高まった姿
(2)	お母さんは、いろいろな仕事をして大変だな。	自分でうわばきを洗うと、お母さんの仕事が減るよ。

3 「対象に関わる楽しさに気付く」とは、活動や体験を楽しんだり、対象への願いをもったりすることである。

内容	事実に基づく気付き	気付きの質が高まった姿
(3)	あそこの公園で遊びたいな。	大きなすべり台が楽しいよ。みんなで行きたいな。

4 「生命の大切さに気付く」とは、生き物が生命をもっているという気付きを、生命を守っている自分の存在と結びつけることである。

内容	事実に基づく気付き	気付きの質が高まった姿
(7)	あんなに小さかったミニトマトが大きくなったよ。	こんなに大きくなったのは、ぼくが毎日忘れずに水をあげていたからだよ。

5 「自他のよさに気付く」とは、互いの共通点や相違点についての気付きを肯定的に受け止めることである。

内容	事実に基づく気付き	気付きの質が高まった姿
(8)	〇〇さんは幼稚園の子にやさしく話していたよ。	〇〇さんは、幼稚園の子が分かるようにゆっくりとやさしく話していたから、わたしもまねしたいと思った。

③「自分自身」に対する気付きの質の高まりの姿

1 「自分の成長に気付く」とは、自己の内面的、外面的な成長についての気付きを実感することである。

内容	事実に基づく気付き	気付きの質が高まった姿
(9)	赤ちゃんのときの洋服はとても小さいなあ。	こんなに小さい服をぼくが着ていたなんてびっくりだよ！着られるかな。(ぼくは大きくなったな。)

IV 検証授業

第1学年実践 「ちょうわしょう・だいはっけん（学校探検）」

1 単元名 ちょうわしょう・だいはっけん（学校探検） （全11時間）

2 単元の指導目標

- 学校の施設の様子や先生及び学校生活を支えている人々や友達に関心をもち、楽しく学校生活を送ろうとしている。 （生活への関心・意欲・態度）
- 学校探検で気付いたことや感じたことを、自分なりに工夫してまとめたり伝えたりすることができる。 （活動や体験についての思考・表現）
- 学校には、様々な施設や学校生活を支えている人々がいることに気付くとともに、自分との関わりに気付くことができる。 （身近な環境や自分についての気付き）

学習指導要領解説 生活編 第3章 生活科の内容より

- (1) 学校の施設の様子や先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。

3 単元の評価規準

A 生活への関心・意欲・態度	B 活動や体験についての思考・表現	C 身近な環境や自分についての気付き
① 意欲的に学校探検をし、学校生活を楽しく送る工夫をしようとしている。 ② 学校の施設、先生や学校生活を支えてくれる人々に関心をもって関わろうとしている。	① 学校探検して気付いたことや感じたことを絵や文で表すことができる。 ② 分からないことや知りたいことを周りの人に聞くことができる。 ③ 自分が発見したことや教えてもらったことを伝えることができる。	① 学校には、いろいろな施設や設備があることに気付いている。 ② 学校には、学校生活を支えてくれる人がいることに気付いている。 ③ 学校生活を支えてくれる人々と自分たちの生活との関わりに気付いている。

4 研究主題に迫るための手だて

本單元における気づきの質を高めるための学習活動と児童の姿

学習活動 気づきを高める姿	見付ける活動	比べる活動	たどる活動	繰り返す活動	試す活動	◎気づきの質を高めるための学習活動
						児童の姿
						<p>「事実に基づく気づき」</p> <p>↓</p> <p>「気づきの質が高まった姿」</p> <p>★気づきの質を高めるための学習に対する指導</p>
対象の役割に気付く (対象=学校の施設・学校生活を支えている人々)	○	○	○	○		<p>◎「対象の役割に気付く」ために、1回目の探検のあと、学校の施設で見付けたことを発表し、違いを比べる。2回目の探検のあと、インタビューしたことを発表し、学校の施設と学校生活を支えている人々の様子を比べる。</p> <p>「事務室にはのりや画用紙がたくさんある。」</p> <p>↓</p> <p>★学校の施設で見付けたことを発表し、学校の施設にあるものや人々の様子の違いを比べさせる。</p> <p>「事務室には、みんながいつでも使えるように、のりや画用紙がたくさん用意してあるよ。」</p>
人の思いに気付く (対象=学校生活を支えている人々)	○	○				<p>◎学校生活を支えている人々の仕事、仕事に対する思いや願いを聞く質問を考える。</p> <p>「用務主事さんは、いろいろな仕事をしている。」</p> <p>↓</p> <p>★人々が働いているときの気持ち、困ること、うれしいこと、児童へのお願いなどを聞く質問を考えさせたり、発表させたりする。</p> <p>「ごみを捨てたり物を直したり、どのような仕事も一生懸命に仕事をしている。」</p>
自分と対象との関わりに気付く (対象=生活を支えている人々)		○				<p>◎学校生活を支えている人々の願いと自分の生活を比べて、思ったことや考えたことを手紙に表す。</p> <p>「僕たちの給食を作ってくれる人がいる。」</p> <p>↓</p> <p>★学校生活を支える人々の願いから、思ったことや考えたことを手紙に書かせる。</p> <p>「僕たちがおいしく給食を食べられるのは、給食を作ってくれる人たちががんばってくれるからなんだ。」</p>

5 学習指導計画（全11時間）

時	・学習活動 ◎気付きの質を高めるための学習活動	○教師の指導 ★気付きの質を高めるための学習活動に対する指導	◆評価規準（評価方法） ・児童の気付き ●気付きの質が高まった姿
1 2	・2年生の案内で校内を探検する。 ・2年生の説明を聞く。	○探検の約束を確認する。	◆意欲的に学校探検しようとしている。 A - ①（探検カード） ・全部の教室を見たよ。 ・図書室をもう一度見たいな。
3	・ワークシートに、探検して見付けたことを絵と文で書く。	○気付いたことやそこから感じたことなど具体的に書くように声かけをする。 ○どのような場所に何があったのか、誰がいたのかを思い出すように伝える。	◆学校にはいろいろな施設や設備があることに気付いている。 C - ①（ワークシート） ・保健室にはいろいろな道具がありました。その中にはベッドもありました。はさみみたいなのがありました。ガーゼもありました。
4	・ワークシートに書いたことを基に、どの教室に何があったのか、誰がいたのかを全体で確認する。	○発表しやすい雰囲気をつくり、児童の気付きを多く取り上げる。 ○特別教室の名前や学校生活を支えている人々の名前を確認する。	◆自分が発見したことや2年生から教えてもらったことを伝えることができる。 B - ③（発言・会話） ・保健室にはA先生がいるよ。
5	・探検の約束を全体で確認し、アンケート用紙に、探検したいところやインタビューしたい人を記入する。	○学校生活を支えている人々の名前を振り返り、探検に行くことができる場所を伝える。	◆学校には、学校生活を支えている人々がいることに気付いている。 B - ②（発言・会話）
6	・探検の約束、インタビューで聞きたいこと、知りたいことなどをワークシートに書く。	○児童の希望に合うように、また生活班とはできる限り異なるメンバーで組めるように工夫する。 ○どのような仕事をしているのかを予想させ、質問したいことを考え確認させる。	◆分からないことや知りたいことを周りの人に聞くことができる。 B - ②（発言・会話）
7	・探検の約束を確認し、グループごとに担当の教室へ行き、インタビューをする。 ◎探検して「はっけんしたこと」をワークシートに書く。	○探検した部屋の様子をよく見てくるように声をかける。 ○ワークシートは「1回目の探検で発見したこと」のスペースに書くように指示する。 ○見付けたもの、聞いたこと、思ったことを書くように声をかける。	◆学校の施設、先生や学校生活を支えている人々に関心をもってかかわろうとしている。 A - ②（行動観察） ・事務室の秘密の部屋にはのりや画用紙があった。

8	<p>・発見したことを発表する。</p> <p>◎1回目の探検のあと、学校の施設で見付けたことを発表し、2回目の探検に行く際の視点を明確にもたせる。</p> <p>◎学校生活を支えている人々の仕事、仕事に対する思いや願いを聞く質問を考える。</p>	<p>○ 発表の中から、不思議なことや疑問を引き出し、さらに聞いてみたいという意欲がわくように声をかける。</p> <p>★「対象の役割に気付く」ために、学校の施設で見付けたことを発表し、学校の施設にあるものや人々の様子の違いを比べさせる。</p> <p>★「人の思いに気付く」ために、人々が働いているときの気持ち、困ること、うれしいこと、児童へのお願いなどを聞く質問を考えさせる。</p> <p>○ 休み時間にも学校生活を支えている人々の様子を見に行ってもよいことを伝える。</p>	<p>◆分からないことや知りたいことを周りの人に聞くことができる。</p> <p>B - ② (行動観察)</p> <p>◆自分が発見したことや教えてもらったことを伝えることができる。</p> <p>B - ③ (行動観察・作品)</p> <p>●主事さんの部屋にはいろいろなものがあった。主事さんはいろいろな仕事をしているよ。</p> <p>●事務室には、みんながいつでも使えるようにのりや画用紙がたくさん用意してあるよ。</p>
9 10	<p>・2回目の探検に行き、学校生活を支えている人々の願いを中心にインタビューし、伝え合う。</p> <p>◎2回目の探検のあと、インタビューしたことを発表し、学校の施設と学校生活を支えている人々の様子を比べる。</p>	<p>○ 学校生活を支えている人々の話を聞くことが大切であることを伝える。</p> <p>○ 話を聞いて感じたこともワークシートに書くように促す。</p> <p>○ 1回目に使ったワークシートの続きに、2回目の探検で発見したことを書かせる。</p> <p>★「人の思いに気付く」ために、人々が働いているときの気持ち、困ること、うれしいこと、児童へのお願いなどを発表させる。</p>	<p>◆学校の施設、先生や学校生活を支えている人々に興味をもってかかわろうとしている。</p> <p>A - ② (行動観察)</p> <p>◆分からないことや知りたいことを周りの人に聞くことができる。</p> <p>B - ② (行動観察)</p> <p>●ごみを捨てたり、物を直したり、どのような仕事にも一生懸命行っている</p>
11	<p>・学校生活を支えている人々に感謝の手紙を書く。</p> <p>◎学校生活を支えている人々の願いから、思ったことや考えたことを手紙に表す。</p>	<p>○ 学校生活を支えている人々がいたらどうなるかを考えさせる。</p> <p>○ 手紙は文字だけではなく絵を描いてもよいことを伝える。</p> <p>★「自分と対象との関わりに気付く」ために、学校生活を支えている人々の願いから、思ったことや考えたことを手紙に書かせる。</p>	<p>◆学校生活を支えている人々と自分たちの生活との関わりに気付いている。C - ③ (作品)</p> <p>●調理士さんはがんばっているから僕たちが食べられます。調理士さんもお店の人にもありがとう。これからは僕たちは、がんばります。</p>

6 実践を振り返って

研究主題に迫るための手だてに対して分析し、以下の点が明らかになった。

- ・1回目の探検を振り返る活動を設定し、次に探検に行く際の視点を明確にしたことや、1枚のカードに2回分の気付きを書くことで、児童は、自分自身の活動の結果の気付きや感想の変化を認識することができ、気付きの質を高めることに有効であった。
- ・児童が探検を行って分かったことから働く人の思いに迫ることができるよう、繰り返しの活動においてインタビュー活動を取り入れ、聞き取ったことを分かりやすくまとめられるようワークシートを工夫したことで、学校生活を支えている人々がどのような思いで仕事に取り組んでいるのか、気付くことができた。
- ・入学期の単元であったので、活動の計画を教師が立てたことで、児童自らが探検したい場所の計画を十分に立てることができなかつた。児童自らがすすんで、もっと探検したい、聞きたいと思うような計画や学習活動を設定することで、より質の高い気付きを得ることができると考えた。

第1学年実践 「ようこそ、豊玉南小学校へ！」

1 単元名 ようこそ、豊玉南小学校へ！（全9時間）

2 単元の目標

○園児との交流会に向けて、園児が楽しめる工夫について友達と相談し、すすんで交流会の計画を立てることができる。また、交流会では園児と楽しく交流することができる。

（生活への関心・意欲・態度）

○園児との交流会に向けて、内容を工夫して準備をしたり、楽しく交流したりすることができる。

（活動や体験についての思考・表現）

○友達や園児と交流し、身近な人々と関わる楽しさについて気付くことができる。

（身近な環境や自分についての気付き）

学習指導要領解説生活編 第3章 生活科の内容より

（6）身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

（8）自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

3 単元の評価規準

A 生活への関心・意欲・態度	B 活動や体験についての思考・表現	C 身近な環境や自分についての気付き
<p>① 小学校の楽しさを伝えるために、積極的に話し合い交流会の計画を立てている。</p> <p>② グループの友達と協力して、必要な材料や道具を考え用意するなど、積極的に準備を進めている。</p> <p>③ 園児の立場になって、優しく接している。</p>	<p>① グループの友達と一緒に、園児が楽しめる遊びを工夫することができる。</p> <p>② 友達のよさを取り入れながら、遊びをさらに工夫することができる。</p> <p>③ 園児にも分かりやすく、教えることができる。</p>	<p>① 友達の工夫したよさに気付く。</p> <p>② 友達と協力したり、園児と一緒に遊んだりすると楽しいことに気付く。</p>

4 研究主題に迫るための手だて

本單元における気づきの質を高めるための学習活動と児童の姿

学習活動	見つける活動	比べる活動	たとえる活動	繰り返す活動	試す活動	◎気づきの質を高めるための学習活動
						児童の姿
気づきを高める姿						<p>「事実に基づく気づき」</p> <p>↓</p> <p>☆気づきの質を高めるための学習活動に対する指導</p> <p>↓</p> <p>「気づきの質が高まった姿」</p>
自分と対象との関わりに気付く (対象＝園児)		○		○	○	<p>◎園児が楽しめるように、グループごとに園児の立場に立って準備をする。</p> <p>「あやとりを教えたいな。」</p> <p>↓</p> <p>☆自分が園児だった頃のことを思い出させたり、園児が自分より年下だということを意識させたりする。</p> <p>↓</p> <p>「あやとりの仕方を、絵に描いたら分かりやすいかもしれないな。」</p>
対象と関わる楽しさに気付く (対象＝園児)		○		○		<p>◎対象と関わる楽しさに気付くために少人数のグループで園児を案内したり、教えたりする。</p> <p>「どの順番から案内しようかな。」</p> <p>↓</p> <p>☆児童と園児を1対1や1対2の少人数グループにすることで、どの児童も園児とかわかっているようにする。</p> <p>↓</p> <p>「保育園の子が、行きたいところを聞いたよ。」 「お世話をしてみて、かわいいなと思ったよ。」</p>
自他のよさに気付く (他＝友達)	○	○			○	<p>◎自他のよさに気付くために、他のグループのよいところを認め、取り入れながら準備する。</p> <p>「〇〇さんは『ルールを簡単にしよう。』とっていたよ。」</p> <p>↓</p> <p>☆他のグループの遊びを体験し、そのよさを味わわせ、友達のよさに気付いた児童のつぶやきを紹介したり、掲示したりして、共有する。</p> <p>↓</p> <p>「小さい子のことを考えて言っていて、いい考えだと思ったよ。ぼくもそんなふうに考えよう。」</p>

5 学習指導計画 (全9時間扱い)

時	・学習活動 ◎気付きの質を高めるための学習活動	○教師の指導 ★気付きの質を高めるための学習活動に対する指導	◆評価規準(評価方法) ・児童の気付き ●児童の気付きの質が高まった姿
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・南小祭りで楽しかったことを振り返る。 ・園児を招待することを知り、計画を立てる。 ・グループでどんなことができるか話し合い、内容を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小さい子と遊びたい、仲良くなりたいという意欲を引き出す。 ○10月と3月に招待することを知らせ、何をするかまとめていく。 ○全員に責任をもって取り組ませるために、少人数グループに分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆小学校の楽しさを伝えるために、積極的に話し合いに参加している。 A-①(学習態度・発言) ・あやとりを教えたいな。
3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループごとに、園児の立場に立って準備をする。 ◎他のグループのよいところを認め、取り入れながら準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間の始めにその時間で何をするかを伝え、見通しをもたせる。 ○園児に楽しんでもらうことが大切だということを押さえる。 ★「自分と対象との関わりに気付く」ために、自分が園児だった頃のことを思い出させたり、園児が自分より年下だということを意識させたりする。 ○各グループの活動の様子を見る時間を設け、自分と友達のよさを全体で共有する。 ★「自他のよさに気付く」ために、他のグループの遊びを体験し、そのよさを味わわせ、友達のよさに気付いた児童のつぶやきを紹介したり掲示したりして、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆グループの友達と協力して、必要な材料や道具を考え用意するなど、積極的に準備を進めている。 A-②(学習態度・発言) ◆グループの友達と一緒に、園児が楽しめる遊びを工夫することができる。 B-①(学習態度・発言) ●あやとりの仕方を、絵に描いたらわかりやすいかもしれないな。 ◆友達の工夫したよさに気付く。C-①(ワークシート) ◆友達のよさを取り入れながら、遊びをさらに工夫することができる。 B-②(学習態度・発言) ・〇〇さんは「ルールを簡単にしよう。」と言っていたよ。 ●〇〇さんは、小さい子のことを考えて言っていたから、いい考えだと思ったよ。ぼくもそんなふうを考えよう。

7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園の子供たちと遊ぶ。 ◎少人数のグループで園児を案内したり、教えたりする。 ・振り返りカードを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○始めの会で自己紹介や約束事の確認をし、双方が安心して活動できるようにする。 ★「対象と関わる楽しさに気付く」ために、児童と園児を1対1や1対2の少人数グループにすることで、どの児童も園児と関われるようにする。 ○お店担当・案内担当の2つの立場から関わりをもたせる。 ○友達や園児との交流をして楽しかったという気持ちを、改めて感じ、全体で共有させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆園児に、優しく接している。A-③（学習態度・発言） ◆園児にも分かりやすく、教えることができる。B-③（学習態度・発言） ・どの順番から案内しようかな。 ●「保育園の子が、行きたいところを聞いたよ。」 ●「お世話をしてみて、かわいいなと思ったよ。」 ◆友達と協力したり、園児と一緒に遊んだりすると楽しいことに気付く。C-②（学習態度・発言・ワークシート）
-------------	---	--	---

6 実践を振り返って

【幼稚園、保育園の子供たちと遊ぶ活動（7／9・8／9時間）】

[気付きの質を高めるための学習活動に対する指導]

- 児童と園児を1対1や1対2の少人数グループにすることで、どの児童も園児と関われるようにする。
- お店担当・案内担当の2つの立場から関わりをもたせる。



保育園の友達に、お手本を見せながら、一緒にあやとりをしたよ。



画用紙に1問ずつ大きく問題を書いて保育園の友達が見やすいようにしたよ。

保育園の友達が喜んでくれて嬉しかったです。会えて楽しかったと思いました。



最初はとっても大勢で、誰が誰だか分からなかったけど、楽しくて保育園児になりたいくらいでした。



7 実践を振り返って

検証授業を通して、研究主題に迫るための手だてを分析し、以下の点が明らかになった。

- ・児童一人一人に役割をもたせたことで、活動に対する見通しをもつことができ、意欲をもった活動を行うことができた。
- ・園児との交流を意識し、活動に取り組ませたことで、園児が楽しむことのできる遊びを工夫して考えることができた。
- ・友達のよいところを紹介し、共有させたり賞賛させたりすることで、児童がどのように行動すればよいのか見通しをもつことができた。
- ・遊びの工夫を考えさせる前に、自分たちで遊び、課題を明らかにしてから次の活動に入る必要であった。
- ・児童の活動に対する思いは強くあったが、グループ内で個々の作業が多く、話合いの場を多く取り入れることが必要であった。

V 研究の成果と課題

研究の内容を踏まえて、以下の3点から研究の成果を述べる。

(1) 気付きの質が高まった姿を分類して整理し、生活科の内容と照らし合わせる

生活科の内容それぞれにおいて、気付きの質が高まった姿を明らかにしたことで、各単元において具体的な児童の姿を設定し、学習指導計画に位置付けることができた。また、気付きの認識を深めていきたい内容においては、重点化を図ることで、対象との関わりを深める学習指導計画を作成することができた。

(2) 気付きの質が高まった姿の捉え方と実際の児童の姿の具体例を考える

部会において、気付きの質が高まった姿を共通認識することで、気付きを基にした学習活動を具体的に設定することができ、具体的な手だてとして「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「繰り返す」、「試す」等を学習指導計画に位置付けることができた。また、具体的な環境設定や指導を行うことで、次の活動や体験の広がりが出てきた。

(3) 単元における気付きの質が高まった姿を考える

単元において、気付きの質が高まった児童の姿を具体的に示すことで、教師の指導が具体化され、個に応じた指導の充実を図ることができた。また、気付きの質が高まっていない児童に対して具体的な手だてを行うことで、体験や活動への広がりが出てきた。

研究の課題については、以下の3点である。

- ・気付きの質の高まった姿を具体的に想定して、学習指導計画を作成することができたが、具体的な活動や体験を行う中で、児童の思いや願いに柔軟に対応し、さらに気付きの質を高めていくこと。
- ・児童一人一人の思いや願いに沿った多様な学習活動を展開するための、評価計画を作成すること。
- ・言語による気付きの認識から、他者と情報交流することを目指した学習活動を設定すること。

平成22年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 生 活

地区	学 校 名	職名	氏名
新宿区	早稲田小学校	主任教諭	○下村 光
練馬区	豊玉南小学校	教 諭	大竹 玲子
葛飾区	堀切小学校	主任教諭	◎武藤末千子
調布市	調和小学校	教 諭	藤井 実穂
小平市	小平第六小学校	教 諭	清野 純子

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育開発課
指導主事 大須賀 慎一

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
小学校 生 活

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕
平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451